

お知らせ

会長報告

- ・11月はロータリー財団月間です。
- ・10月28日の地区大会へ大勢の参加ありがとうございました。地区より礼状が届いています。

幹事報告

- ・地区より「世界エイズデー2012in和歌山」の案内及び会長報告にてご案内しました地区大会礼状が届いていますので回覧します。

委員会報告

60周年記念委員会 阪本哲次記念誌委員長

- ・11月8日(木)に記念誌用個人写真の撮影を行います。午前11時30分より午後2時ごろまで奥の洋室葵の間にて来られた方より順次行います。撮影時は、ネクタイと上着の着用をお願いします。欠席の方は、29日に予備日を設けております。

60周年記念事業

田辺・弁慶映画祭へ特別協賛金授与



- ・田辺・弁慶映画祭実行委員会原副実行委員長へ特別協賛金の目録を授与しました。明日2日より、いよいよ田辺・弁慶映画祭が始まります。

2012-13年度RI第2640地区年次大会

北中登一ガバナー



地区大会会場

記念撮影



地区大会受付



プログラム



『私の故郷』

RI第2640地区
米山記念奨学生

レン・リン
任 琳 さん
(桃山学院大学・堺北RC)



最初に大阪に来た際に、自己紹介のとき、よく皆に「中国のどこ。」と聞かれる。「ジャムス」と答えたら、ほとんど皆が「知らないな」と言う。「ハルビンの近く」と説明したら、なんとなく分かるようになった。それから「中国のどこ。」と聞かれるとき、「ハルビンです。」と言ってしまふ。この機会に私の故郷について皆さんに紹介させていただきたい。

私の故郷は中国の黒龍江省に属する。黒龍江省は中国の東北部に位置し、中国の最北端地域にあり、緯度が最高の省である。黒龍江省の政治、経済の中心都市はハルビンである。全省で1月の平均気温は -3.2°C ～ -1.7°C 、7月の平均気温は 1.6°C ～ 2.3°C ぐらい。全省の最低気温記録は、 -52.3°C (1969年2月13日、漠河)。北部と東部は黒龍江、ウスリー川を隔ててロシアと相対し、西部は内蒙古自治区と隣接し、南部は吉林省と境を接する。省全域の土地面積は45万4000平方キロで、全国総面積(960万の平方キロ)の4.7%を占めている。黒龍江省の総人口は3800万人。そのうち農村人口は1737万人で、45.8%を占め、都市部人口は2055万人で、54.2%を占めている。なぜ、ここでは農業人口が約半分を示しているのか。実は黒龍江と松花江、ウスリー江の二大支流の合流する一帯は「三江平原」と呼ばれ、海拔50メートルの低湿地帯が構成される。この一帯は別名「北大荒」即ち北方の大荒野と呼ばれ、本農場命名の由来でもある。今は「北大倉」即ち北方の大穀倉とも呼ばれる。

黒龍江省の土地条件は全国で一位を占め、土壌の有機物の含有量も多く、農業に適した土壌は省全域の土壌総面積の40%を占め、世界でも知られた三大黒土

地帯の1つである。黒竜江省は大豆、小麦、トウモロコシ、ジャガイモ、水稻などの穀物およびテンサイ、亜麻、乾燥したタバコの葉などの工芸作物がよくとれる。私のお祖父さん達が「北大倉」を開拓した。お父さん世代は苦勞して耕作した。私が「三江平原」のお米で育てられ、成長してきた。これから、この豊富な資源を国内だけではなく、世界中の人々に知らせるのは私たちの使命である。

私の地元は皆さんによく知られている北京、上海などの大都市ではなく、中国の中では極小さい都市である。この町は佳木斯(ジャムス)と呼ばれている。私はジャムス生まれのジャムスの育ちだ。中国で最も早く日が昇る所として知られ、「東方第一城」の称がある。

黒竜江省東部の経済、文化の中心地である。面積は32,700平方キロ、人口は252万人である。下の地図をみると、松花江という大きな川がこの町を通っている。それは上流、長白山が源流で、吉林、ハルビンなどを通して、佳木斯(ジャムス)にたどり着く。そして、下流は先200kmぐらいでアムール川(黒竜江)本流と合流し、最後にウスリー川合流してハバロフスクを通り、ロシアに流れていく。



この冬はとても寒く、一番寒い時期には -40°C に達したこともある。日中の気温は -10°C ～ -30°C なので完全に凍結している。日本ではなかなか見ることができない景色が多いと思う。大雪が降って、雪が積もってどこも真っ白に舞っている。そんな激寒のなか、ふらふら歩くと冷たい風が当たると痛いぐらい、こういう日は暖かい部屋の中にいることだけで最高の幸せを感じる。この町では10月の中旬から翌年の4月の中旬までに大体集中暖房があり、また皆の家の窓は2重、3重窓があるので暖かい。

冬になると完全に凍結している。日本にいる皆さんが想像できないかもしれないが、下の写真のように、松花江が広くて厚い雪に覆われている。凍った川の上で、スケート場や滑り台も作られている。ここは私の

小さい頃の楽園であった。冬が長いので、氷祭りは全国でも有名である。特にハルビンの氷祭りは毎年沢山の国内外の観光客を迎えている。すべて天然の水で作られた建物に感動する。職人達が腕を揮ってあっという間に何メートルの巨大な氷は本物のように生き生きとしたものになる。その素晴らしい技に感動させられる。



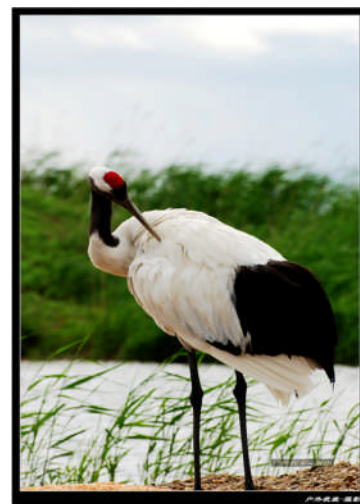
大阪の冬は、雪を見ることはめったにないが、偶然に雪を見たら、田舎を思い出して、一人で留学生活をしている私もホームシックになる。つらいことに遭った時、「冬来りなば春遠からじ」という言葉をずっと自分に言い続けてきた。

冬は天地がすべて凍結するような景色であるが、夏になると以外に37℃を超える日もある。でも、大阪と比べて、涼しいと思う。工業が少ないため、美しい山川、森林、湿地、河川、湖はエコロジー観光を繰り広げる資源の基礎となっている。日々忙しい大都市で暮らしている人々が癒されるところである。そのほか、東北のタイガーパーク、タンチョウヅルなどの野生動物は全国でも有名である。



東北のタイガー1頭あたり1,000平方キロ(東京都の面積の半分)の森林が必要だとされるが、森林伐採が進みタイガーの面積が30%も減少するなど、その生息地が脅かされている。また、トラの骨などが高級酒の原料として高値で取引されているため、密猟も数多い。これらの原因で個体数は激減し、国際自然保護連合が発表しているレッドリストでも絶滅危惧種に指定され、対策が必要と指摘されている。東北のタイガーを救うために、ハルビンの郊外に野生の東北のタイガーを育てている基地がある。観光客にも開放しているが、上の写真であるように、小型バスに乗って、近い距離で見ることができる。危険なため、基地に入る前に、「生死誓約書」みたいなものも書かなければならない。

東アジアにおいては古くから、タンチョウは瑞鳥とされ、ひいては縁起のよい意匠として、文学や美術のモチーフに多用されてきた。また、「皇太子の乗る車」を指して「鶴駕(かくが)」と呼ぶように、高貴の象徴ともされた。中国の道教では、タンチョウは仙人の象徴、不老長寿の象徴とされ珍重された。統計によると、全世界では2,000羽しかいないそうだ。夏に、地元のタンチョウヅルの野生保護区へ行ったら、運がよければその姿を見せてくれるかもしれない。



以上が、私の故郷である。2011年のデータによると黒竜江省に進出日系企業数は23である。これから、黒竜江省の中心都市のハルビン、中国最大の石油生産基地の大慶などの地域を結んで、石油化学、食品、医薬品、ハイテク技術などの産業を育成し、2020年までに921平方キロの工業園區を建設する計画がある。商談会や博覧会などを通じて、世界に黒竜江省をアピールし、外国企業の誘致を大変重視している。その中でも、特に日本に対する期待は大きい。私もその日中友好の懸け橋となって、世界の舞台で活躍したいと思っている。

御清聴ありがとうございました。